

人の食生活は何によって決まるのだろうか。

食生活の地域的分布

世界の食生活は、各地域における主要作物の分布から影響を受けてきた。米

をおもに食べる地域は、東南アジアから東アジアを中心に分布する。その一方、小麦をおもに食べる地域は、地中海沿岸地域を中心に、南アジアや東アジア北部に広がる。また、トウモロコシや雑穀をおもに食べるのは、中央アメリカやサハラ以南アフリカといった地域である。さらに、イモ類をおもに食べる地域は、サハラ以南アフリカやオセアニアの島々におよぶ。これら主要作物の分布は、栽培限界をふくめ、各々の作物の栽培条件に大きく影響される。このように世界の食生活は、農業を取り巻く自然環境に影響されていることがわかる。

農業の地域的分布

農業は自然環境のみならず、経済などの社会環境にも影響され、大きく三つの経営形態に分化してきた。最も伝統的な農業形態として、熱帯での焼畑、乾燥帯でのオアシス農業、アジアでの集約的稲作や集約的

焼畑など、自家消費を主目的とする自給的農業が成立した。その後、産業革命の影響で工業化が進むと、ヨーロッパを中心に混合農業や

酪農、園芸農業や地中海式農業といった商品作物の生産を目的とする商業的農業が拡大する。さらに20世紀以降は、農業機械や化学肥料を使った効率的な農業経営が普及するようになる。その代表的な例として、南北アメリカやオーストラリアなどの「新大陸」で大規模に穀物栽培や牧畜を行う企業の農業をあげることができる。

食文化の多様性と変容

このような食生活や農業の分布は、自然環境や社会環境だけでなく、食物禁

忌などの文化環境の影響を少なからず受けている。それは食肉で典型的にみられ、例えばヒンドゥー教徒は牛肉を、ムスリム(イスラム教徒)は豚肉を、宗教上の禁忌(タブー)から食さない。また、肥満が社会問題化したアメリカ合衆国では、健康志向やダイエット志向が高まり、牛肉よりも鶏肉の消費量が多くなっている。これによって、アメリカ合衆国では綿花栽培がさかんだった南部諸州がプロイラー(肉用若鶏)の産地に変貌するなど、食文化が農業に影響をあたえることも少なくない。さらに近年、先進国だけでなく新興国もふくむ地域にファストフードが進出したことで、地域性をもっていた食生活が均質化する傾向もみられる。このような現象は、現代の食生活や食文化がグローバル化の影響を大きく受けていることをよく示している。